

1 調査目的

足立区では、平成 27 年 4 月に施行された「生活困窮者自立支援法」に基づき、仕事・生活・家庭・こころの問題など、様々な課題を抱えた方の総合相談窓口を設置し、一人ひとりの状況に応じた自立に向けた支援を実施している。今後、より効果的な施策や事業を推進していくにあたっては、若年から中高年まで幅広い年代の方の生活状況や、困難を抱える方のニーズや課題の把握が不可欠である。

本調査では、区内在住の満 15 歳から 64 歳までの方を対象に、暮らしぶり、居住地の人間関係、就労状況、ふだんの活動、外出の頻度等について調査し、生活状況やひきこもりの状況について把握することで、生きづらさを抱える様々な方に対する適切な支援のあり方を検討するための基礎データを得ることを目的とする。

2 調査項目

- (1) 基本的属性について (Q 1 ~ Q 9)
- (2) 学校生活に関すること (Q 10 ~ Q 11)
- (3) これまでの経験 (Q 12 ~ Q 13)
- (4) 就労・就学等に関すること (Q 14 ~ Q 17)
- (5) ふだんの活動に関すること (Q 18 ~ Q 19)
- (6) ひきこもりの状態に関すること (Q 20 ~ Q 24)
- (7) 相談機関に関すること (Q 25 ~ Q 30)
- (8) ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること (Q 31 ~ Q 35)
- (9) 自分についてあてはまること (Q 36 ~ Q 40)
- (10) 悩み事の相談に関すること (Q 41 ~ 42)
- (11) 支援のあり方についての意見 (Q 43)
- (12) 現在や将来の不安 (Q 44)

3 調査対象

- (1) 母集団 足立区内在住の平成 31 年 4 月 2 日において満 15 歳から 64 歳の男女
※中学生を除く
- (2) 標本数 3,500 人

4 調査時期

令和元年 11 月 7 日 ~ 11 月 25 日

5 調査方法

郵送配付・郵送回収法 (事前案内はがき・礼状兼督促状はがきともに 1 回)

6 調査実施機関

一般社団法人 中央調査社

7 調査地域

図 地域区分図

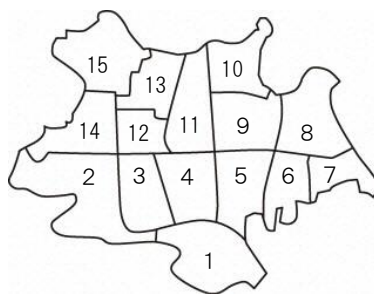


表 調査地域一町丁目対応表

地域名	地 区 町 丁 目 名
第1地域	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2地域	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3地域	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
第4地域	西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5地域	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6地域	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目
第7地域	東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第8地域	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第9地域	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第10地域	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目
第11地域	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第12地域	西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目
第13地域	西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目
第14地域	谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第15地域	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園

8 標本抽出方法

足立区住民基本台帳より無作為抽出法

9 回収結果

(1) 有効回収数(率) 1,671人(47.7%)

(2) 調査不能数(率) 1,829人(52.3%)

10 性・年齢別回収結果

性・年齢		標本数	回収数	回収率	性・年齢		標本数	回収数	回収率
				%					%
男 性	15～19歳	123	35	28.5	女 性	15～19歳	106	42	39.6
	20～29歳	347	83	23.9		20～29歳	316	119	37.7
	30～39歳	387	151	39.0		30～39歳	368	179	48.6
	40～49歳	444	192	43.2		40～49歳	412	250	60.7
	50～59歳	418	217	51.9		50～59歳	356	228	64.0
	60～64歳	124	77	62.1		60～64歳	99	88	88.9
	無回答	-	1	0.0		無回答	-	1	0.0
計		1,843	756	41.0	計		1,657	907	54.7

(注) ここでの無回答は「年齢」を回答していない数を掲載している。また、「性別」を回答していない方(7人)、「性別」が「その他」の方(1人)については除外しているため、各年代の回収数を足し上げても有効回収数とは一致しない。

I 調査の概要

1.1 調査地域別回収結果

地域名	標本数	回収数	回収率
			%
第1地域	390	203	52.1
第2地域	242	122	50.4
第3地域	198	101	51.0
第4地域	307	140	45.6
第5地域	320	144	45.0
第6地域	250	122	48.8
第7地域	179	89	49.7
第8地域	287	123	42.9
第9地域	235	109	46.4
第10地域	152	73	48.0
第11地域	272	124	45.6
第12地域	151	86	57.0
第13地域	178	96	53.9
第14地域	187	74	39.6
第15地域	152	65	42.8
計	3,500	1,671	47.7

1.2 本報告書を読む際の留意点

- (1) nは質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 標本誤差は回答者数(n)と得られた結果の比率によって異なるが、単純無作為抽出を仮定した場合の誤差(95%は信頼できる誤差の範囲)は下表のとおりである。

n \ 各回答の比率	比率				
	10% (又は90%)	20% (又は80%)	30% (又は70%)	40% (又は60%)	50%
3,500	± 1.0	± 1.3	± 1.5	± 1.6	± 1.7
2,500	± 1.2	± 1.6	± 1.8	± 1.9	± 2.0
1,500	± 1.5	± 2.0	± 2.3	± 2.5	± 2.5
500	± 2.6	± 3.5	± 4.0	± 4.3	± 4.4
100	± 5.9	± 7.8	± 9.0	± 9.6	± 9.8
30	±10.7	±14.3	±16.4	±17.5	±17.9

なお、誤差には回答者の誤解などによる計算不能な非標本誤差もある。

- (3) 結果数値(%)は表章単位未満を四捨五入してあるので、内訳の合計が計に一致しないこともある。

(4) 統計表等に用いた符号は次のとおりである。

0.0 : 表章単位に満たないが、回答者がいるもの

— : 回答者がいないもの

M.T. : Multiple total の略で、回答数の合計を回答者数 (n) で割った比率であり、通常その値は100%を超える。

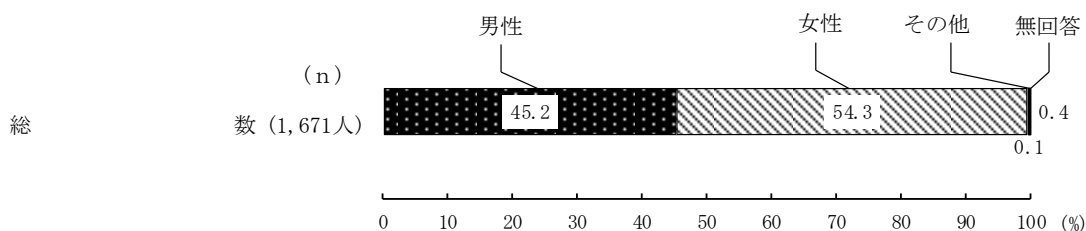
(注) 回答の選択肢が長い場合、その一部を省略して表章して集計してあるものがある。

(5) 本報告書のⅢ章では、調査結果における全体とある層とのパーセントの差に統計的に有意となる差がある部分について主に説明を加えている (信頼度 95%)。

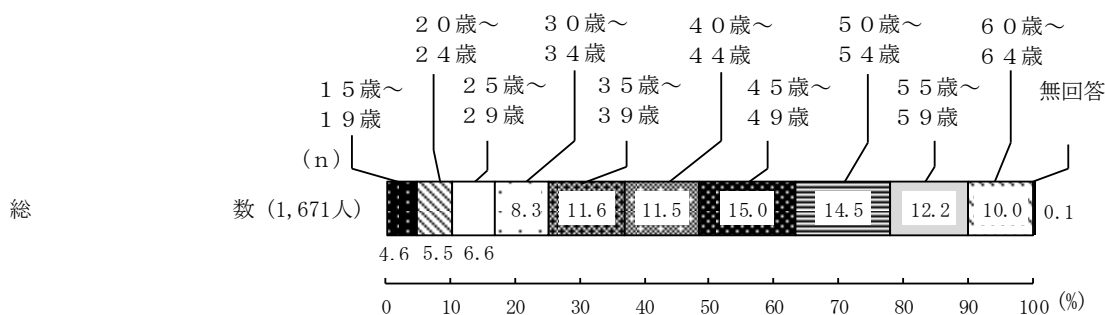
(6) 設問によっては選択肢ごとに点数 (かっこ書きの数字で表記) をつけ、平均点を算出しているものがある。

1.3 対象者の属性

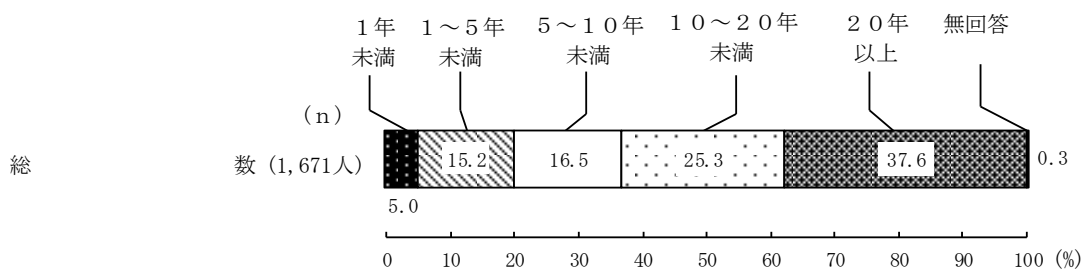
(1) 性別



(2) 年齢

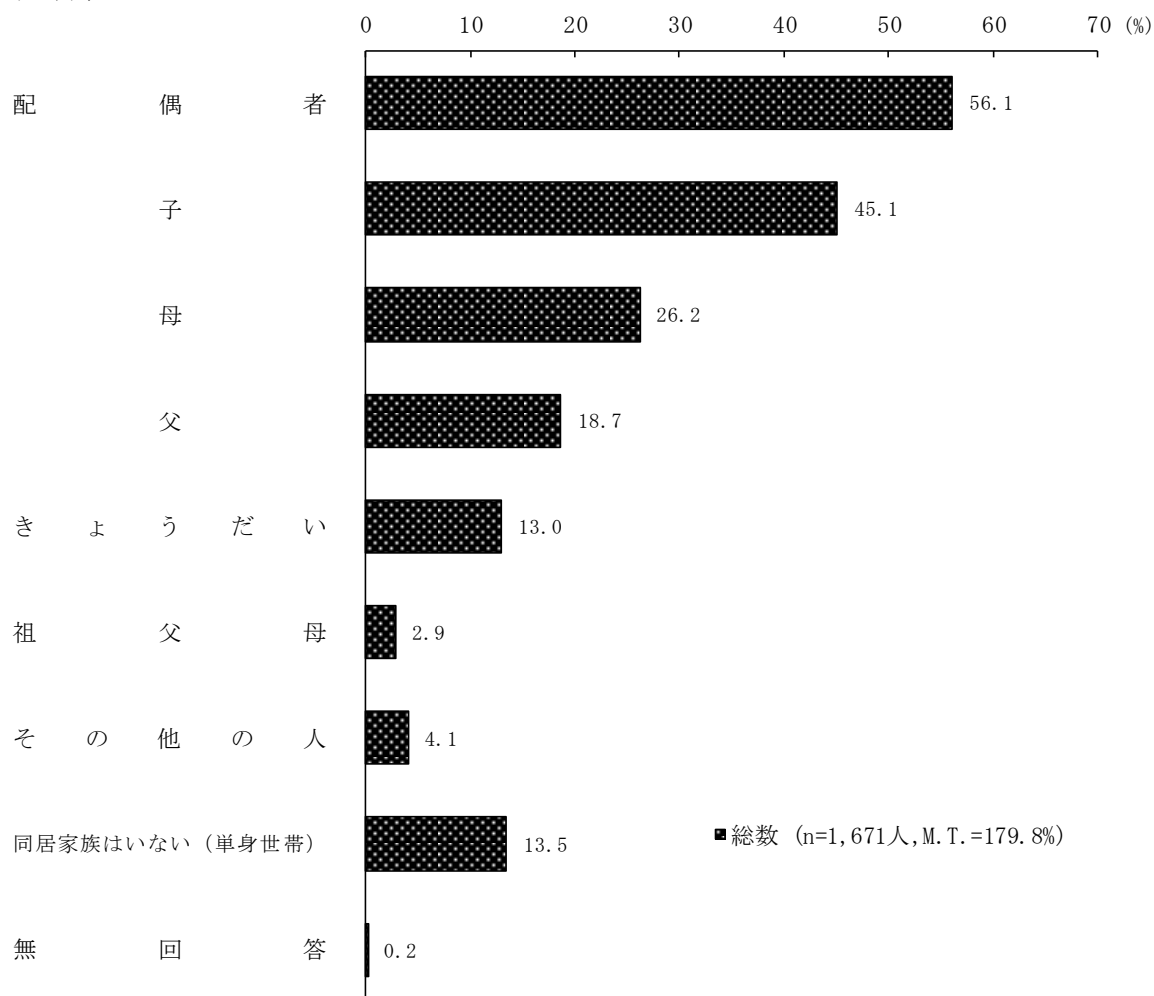


(3) 居住年数

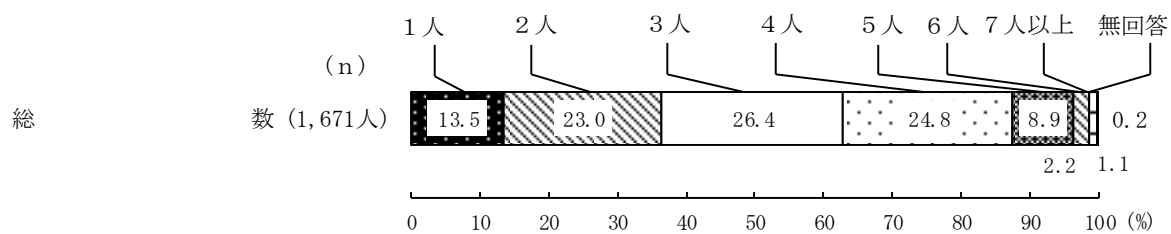


I 調査の概要

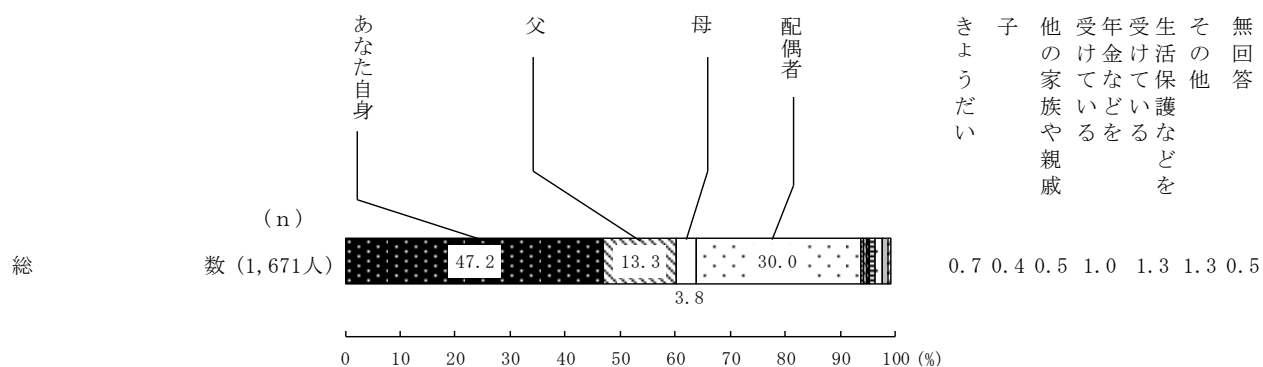
(4) 同居者



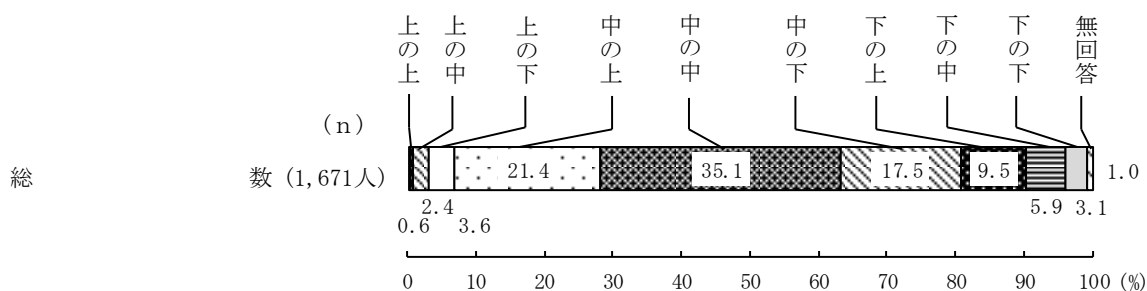
(5) 同居人数



(6) 主生計者

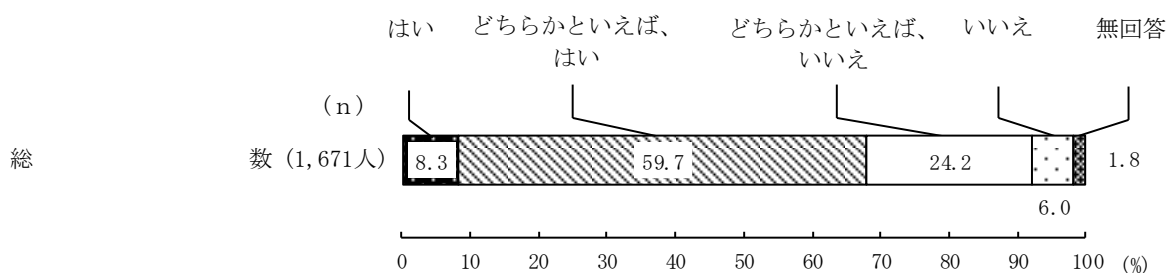


(7) 暮らし向き

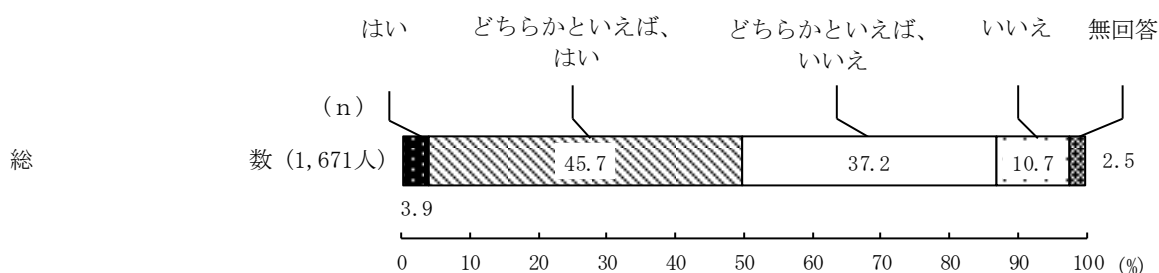


(8) 地域の人々の印象

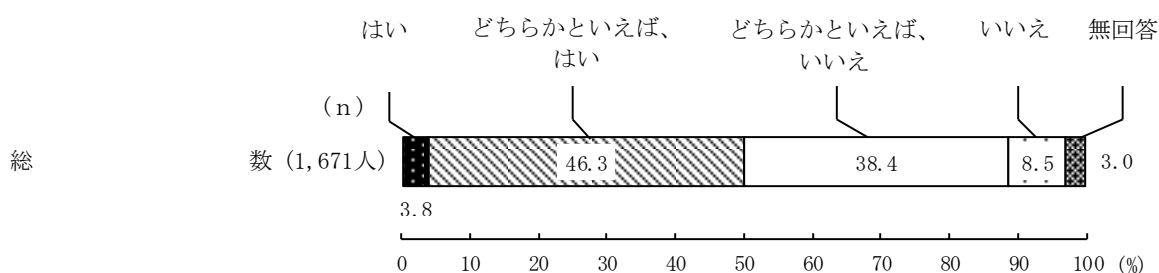
1. この地域の人々は信頼できる



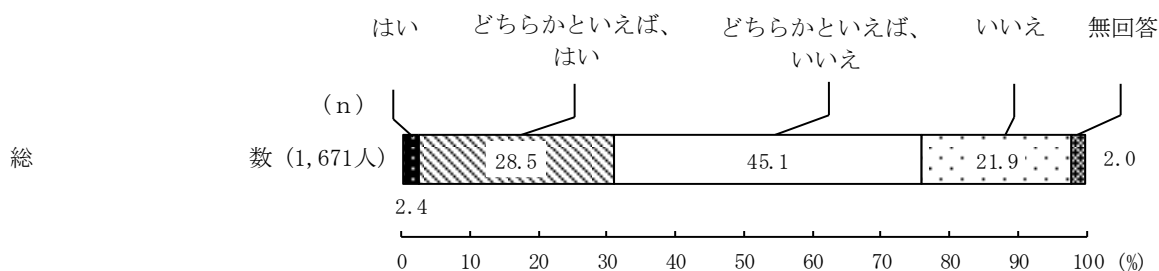
2. この地域の人々は結束が強い



3. この地域の人々は喜んで近所の人を手助けする

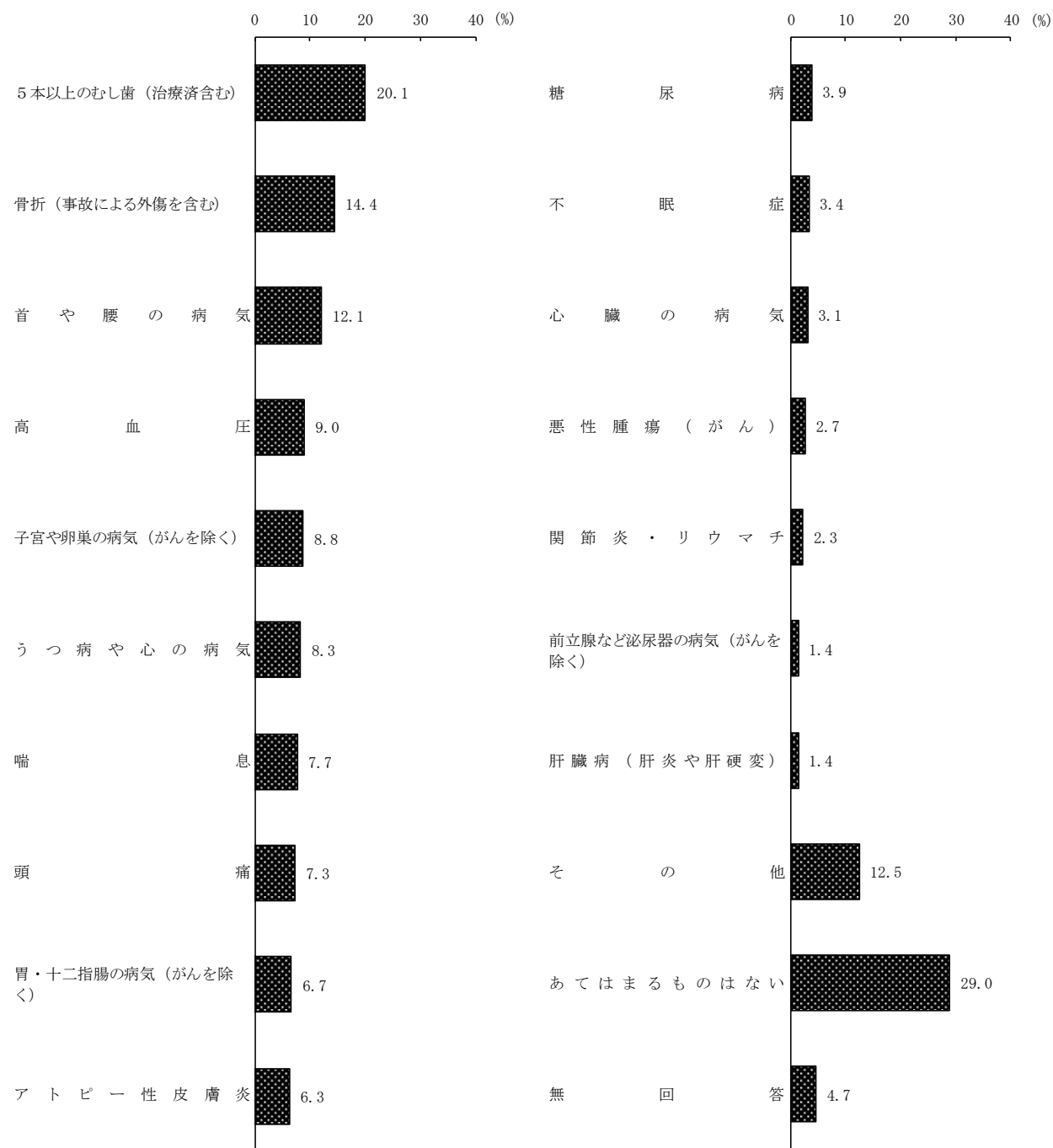


4. この地域の人々はお互いのことをよく知っている



I 調査の概要

(9) 通院・入院経験のある病気やけが



■総数 (n=1,671人, M.T.=165.2%)